第３学年　音楽科学習指導案

○組　　計 39 人
指導者　○○　○○

１　題　材　　ドレミで歌おう

教材　音楽遊び「ドレミ遊び」
「ドレミで歌おう」　小原光一　作詞　　作曲者不明
「海風きって」　高木あき子　作詞　　石桁冬樹　作曲（本時主教材）

２　題材について

⑴ 題材の位置とねらい

これまでに子供たちは，第２学年題材「ドレミであそぼう」において，腕の高さで音高を表すドレミ体操に合わせて簡単な旋律を階名唱したり，その旋律を鍵盤ハーモニカで演奏したりする活動を通して，階名と音高とを結び付けて歌ったり楽器を演奏したりする楽しさを味わってきている。さらに子供たちは，音域をもっと広げて階名唱したり，階名唱を基にさまざまな曲を鍵盤ハーモニカで演奏したりしてみたいという欲求が高まってきている。

そこで，ここでは，これまでより音域の広がった曲で五線譜上の音符の位置と音高とを結び付けて階名唱したり，自分のもったイメージを基にド～ソの５音で簡単な旋律づくりをしたりする活動を通して，ハ長調の階名視唱をしたり音高を感じ取って表現したりする能力を育てるとともに，階名唱に関心をもち，階名唱を基に演奏や旋律づくりをしようとする意欲や，五線譜上の音符と音高とを結び付けて表現する能力を高めることをねらいとして，本題材「ドレミで歌おう」を設定した。

ここでの学習は，旋律の違いを基に歌い方を工夫したり，曲想を感じ取って強弱や速度を工夫したりして表現する能力を育てる第３学年題材「せんりつの感じを生かして」の学習へと発展していくこととなる。

⑵ 指導の基本的な立場

ハ長調の階名視唱をしたり音高を感じ取って表現したりする能力を高めるためには，階名模唱や階名暗唱を通して階名唱に親しませた後，五線譜を見ながら視唱する活動に移行したり，体を使って五線譜上の音符と音高とを結び付けながら階名唱させたりすることが効果的である。特にこの期の子供たちには，拡大五線譜の上に立ち，階名唱しながらその音符の位置に移動する活動を通して，体を動かして楽しみながら音高感を身に付けさせたり，階名唱や鍵盤ハーモニカ奏による旋律づくりの活動を通して，階名唱に慣れさせたりすることが大切である。

具体的には，まず音楽遊び「ドレミあそび」の活動に取り組ませるようにする。この遊びは，さまざまな曲で階名唱しながらドレミ体操をしたり，拡大五線譜の上で階名唱しながらその音符の位置に移動したりするものである。そこで，音高と五線譜上の位置を結び付けながら体を動かす喜びや楽しさを味わえるようにする。

次に「ドレミで歌おう」を取り上げる。この楽曲はド～ドの８音から構成され，上行や下行の順次進行でつくられた一部形式の曲である。また，後半の旋律では音程と歌詞の階名が一致しているため，階名唱をしながら自然に音高感を養うことができ，階名視唱の導入曲として適している。そこで，音高と五線譜上の位置を結び付けながら階名唱したり，鍵盤ハーモニカを演奏したりする喜びや楽しさを味わえるようにする。

さらに「海風きって」を取り上げる。この楽曲は，快活ではずむような前半の旋律と，２分音符を用い，落ち着いた感じの後半の旋律から構成されている。また，最後の２小節では，ド～ソの５音を選び，簡単な旋律をつくることができるようになっている。そこで，教師のつくった旋律の範奏を聴いて旋律づくりへのあこがれをもち，自分のもったイメージを基にこだわって旋律づくりをすることの喜びや楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して，子供たちは，音高と五線譜上の音符とを結び付けて演奏することで

階名で表現することへの興味・関心を高め，正しい音程で階名視唱しようとする態度を養うことができる。

(3) 子供の実態（調査対象　３年○組　39 人）

本学級の子供たちの実態は次の通りであった。

① ドレミで歌うことは楽しいですか。
　はい（33 人）　いいえ（６人）

② その理由を答えてください。

「はい」の理由
・ドレミで歌うのが好きだから（13 人）　・覚えやすいから（７人）
・楽器が早く弾けるようになるから（７人）　・リズムがとりやすいから（３人）
・簡単だから（３人）

「いいえ」の理由
・ただ歌うだけだから（３人）　・歌が好きではないから（３人）

③ 正しい音程でドレミで歌うために，どんなことに気を付けますか。(複数回答)

・間違えないようにする（８人）　・おなかから声を出す（８人）
・次の音や高さを考えながら歌う（６人）　・手本をよく聴く（４人）
・リズムにのる（４人）　・全部覚える（３人）　・その他

④ 「かえるのがっしょう（ハ長調)」を，正しい音程でドレミで歌いましょう。
・拍の流れにのって歌える（18 人）　・間違えないで歌える（17 人）
・拍の流れにのって歌えない（４人）

⑤ ド～ソの五つの音を自由に使って，旋律（二分音符と四分音符の混在した８拍の旋律）を鍵盤ハーモニカでふきましょう。
・拍の流れにのってできる（26 人）　・拍の流れにのってできない（13 人）

①から，子供たちの多くは，階名で歌うことに楽しさやおもしろさを感じている。一方「楽しくない」と答えた子供たちが６人いたが，その理由として「ただ歌うだけ」「歌が好きではない」などという回答が挙げられた（②)。そこで，階名唱の活動に楽しく取り組ませながら，拍の流れにのって歌うことの楽しさを味わえるようにする必要がある。

③から，正しい音程で階名唱するために「次の音や高さを考えながら歌う」「手本をよく聴く」と答えた一方で，ただ単に「間違えないようにする」や，発声の仕方について答えている子供もいた。そこで，教師の範唱や，周りの友達の歌声をよく聴く活動を取り入れる必要がある。

④⑤から，ハ長調の階名視唱の能力については，拍の流れにのって表現できる子供たちが半数ほどいる一方で，途中で音程がずれたり，拍の流れにのれなかったりする子供たちがいた。そこで，個別指導を通して拍の流れにのって練習する活動を取り入れたり，指使いに気を付けて練習する活動を取り入れたりする必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて，指導に当たっては次のようなことに留意したい。

ア　拍の流れにのって階名で歌うことの楽しさを味わえるようにするために，ドレミ体操をしながら階名唱する活動を取り入れたり，拡大五線譜の上で動きながら階名唱する活動を取り入れたりすることにより，子供たちが興味・関心をもって活動に取り組めるような教材・教具の工夫をする。

イ　正しい音程で階名唱することのよさを感じ取らせるために，ピアノなどの伴奏の音に頼らずにアカペラで階名唱させ，階名唱することで音程が取りやすくなることを感じ取らせるようにする。また，階名の分担唱の活動を取り入れることにより，容易に階名唱できるよさを感じ取らせるようにする。

ウ　拍の流れにのって階名唱したり，鍵盤ハーモニカで演奏したりすることができるようにするために，速度を遅くした演奏から練習し始めてだんだん速度を上げて練習させたり，拍の流れにのれない子供の背中を拍に合わせて軽くたたきながら練習させることで，無理なく練習に取り組めるような工夫をする。

３　目　　標

(1)　拍の流れにのって音高を感じ取りながらハ長調の階名視唱をしたり，旋律づくりなどの活動を通して鍵盤ハーモニカで階名視奏をしたりすることができる。【知識及び技能】

(2)　ドレミ体操や階名の分担唱，旋律づくりなどの活動を通して，五線譜上の音符と音高とを結び付けてとらえることができる。【思考力，判断力，表現力等】

(3)　ハ長調を階名唱することに関心をもち，正しい音程や拍の流れにのって演奏できているかを振り返りながら，階名唱や旋律づくりの活動に進んで取り組むことができる。【学びに向かう力，人間性等】

４　指導計画（全５時間）

過　程	時	教　材	主　な　学　習　活　動	教　師　の　働　き　か　け
課　題 把　握 課　題 追求Ⅰ	1	ドレミあそび 「ドレミで歌おう」 「海風きって」	ドレミで歌ってあそぼう。 ○　ドレミの交互唱をする。 （例）教師ド→子供レ→教師ミ→･･･ 教師ドレ→子供ミファ→･･･ ○　既習曲を階名暗唱したり，ドレミ体操をして歌ったりする。 ○　五線譜の仕組みについて話し合う。 ○　拡大五線譜で遊ぶ。	○　正しい音程をつかむことができるようにするために，音程をとりきれていないときはオルガンなどで音程を確認する。 ○　五線譜に対する理解を深めることができるようにするために，拡大五線譜を準備し，音符の位置と階名，五線や縦線，ト音記号について拡大五線譜の上で動きながらとらえさせるようにする。
課　題 追求Ⅱ	2		歌に合わせてドレミ体そうをしたり，五線ふの上で動いたりしよう。 ○　範唱を聴いて，曲の感じについて話し合う。 ○　歌詞唱する。 ○　ドレミ体操をしながら階名唱する。 ○　拡大五線譜で遊ぶ。	○　音高を感じ取りながら正しい音程で階名唱することができるようにするために，子供たち同士のかかわりをもたせた多様な活動を設定し，階名唱や分担唱に取り組ませるようにする。
	3		みんなで楽しく歌っているかんじを生かして，けんばんハーモニカでえんそうしよう。 ○　鍵盤ハーモニカの範奏を聴き，感じたことを話し合う。 ○　指くぐり，指またぎの仕方を知り，練習する。 ・　階名唱しながら指使いの練習。 ・　指くぐり，指またぎの部分の練習。 ○　分担奏をしたり，曲を通して練習したりする。	○　指くぐりや指またぎの奏法を身に付けるようにするために，ペアをつくって確認し合ったり，速度を遅くして練習し徐々に速くしていったりする。また，フレーズごとに分担奏をする活動を取り入れるようにする。 ○　ア の部分の感じを生かして歌うことができるようにするために，歌詞の内容を基に海原を進む船や楽しそうに泳ぐイルカをイメージさせるようにする。
課　題 追求Ⅲ	4		二つのせんりつのかんじのちがいを生かしてえんそうしよう。 ○　範唱を聴いて，曲の感じについて話し合う。 ○　ア の部分の曲の感じを生かして歌い方を工夫する。 ○　イ の部分を階名視唱・視奏したり，ドレミ体操をしたりする。	○　イ の部分の音が跳躍していることを感じ取ることができるようにするために，第２時までに拡大五線譜の上で動いた子供たちに「『ドレミで歌おう』の歌の動きと比べて，何か気付いたことはないかな。」と問いかけるようにする。
課　題 解　決 まとめ	5 （本時）		海のようすをイメージしたせんりつをつくり，リズムにのってえんそうしよう。 ○　イ の部分の範奏を聴き，感じたことを話し合う。 ○　自分のもった海の様子のイメージを基に，ド～ソの五つの音を使って旋律づくりをする。 ○　海の様子のイメージと音とを結び付けてつくった旋律を演奏する。	○　視奏の能力を高めるために，列やペアでの分担奏で短いフレーズを確実に演奏させ，徐々に長いフレーズを演奏させるようにする。 ○　こだわりをもった表現の工夫ができるようにするために，ただ音を並べる旋律づくりではなく，海のイメージをもち，そのイメージに合うような旋律をつくらせるようにする。

５　本　　時（５／５）

(1) 目　　標

ア　自分のもったイメージを基につくった旋律を，拍の流れにのって鍵盤ハーモニカで演奏することができる。【知識及び技能】

イ　ハ長調の音階による旋律づくりに関心をもち，自分のもったイメージを基に旋律づくりをする活動に進んで取り組むことができる。【学びに向かう力，人間性等】

(2) 本時の展開に当たって

子供たちがイメージを基に旋律づくりをすることにあこがれをもつために，教師のつくった範奏を聴かせたり，こだわって旋律づくりができるようにするために，イメージと旋律とが結び付いているかを考えさせたりする活動を取り入れるようにする。

(3) 実　　際

過　程	主　な　学　習　活　動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1　前時までの学習を想起し，「海風きって」の［イ］の部分を鍵盤ハーモニカで演奏する。 2　範奏を聴き，本時のめあてについて話し合う。 海のようすをイメージしたせんりつをつくって，リズムにのってえんそうしよう。 ・　最後の方の音が変わっていたな。 ・　とてもなめらかな感じがしたよ。	(分) 10	○　教師の範奏を聴いてあこがれをもたせるために「この旋律のどんなところがイメージと合っているかな」などと問いかけるようにする。 ○　海の様々な様子がイメージできるように，海から連想できることをたくさん発表させるようにする。 ○　リズムにのって演奏させることを意識付けるために，前時までにどんなことに気を付けて演奏してきたか問いかけるようにする。
課題追求 表現の工夫	3　自分のもったイメージを基に，ふしづくりをする。 ・　「大きなくじら」の様子が出るように，低い音をたくさん使ってつくろう。 ・　波の様子が出るように，音を高くしたり低くしたりしようかな。 4　自分のつくった旋律を練り上げる。 ・　水平線のまっすぐな感じが出るように，一つ一つの音をもっと伸ばした方がいいな。 ・　リズムが遅れているから，ずれないように気を付けて吹こう。	30	○　イメージが浮かばない子供に対しては，イメージが浮かんでくるように，海の様々な様子の写真を見せるようにする。 ○　旋律づくりが進んでいない子供に対しては，旋律づくりの活動が進むように，イメージから結び付けられる音高や，その音の組合せなどをどうすればいいか助言する。 ○　自分たちの旋律づくりの参考にさせるために，活動の進んでいる子供の作品を取り上げ，旋律とイメージとがどのように結び付いているかを考えさせ，自分の作品にこだわりをもたせるようにする。
相互発表・鑑賞 まとめ	5　つくった旋律を発表する。 (1) グループ内で相互発表する。 (2) 全員の前で発表する。 6　学習のまとめをする。 ・　自分のイメージと，旋律の音がぴったり合っていて楽しかった。 ・　友達のつくった旋律も，わたしの想像したイメージと同じだったものがあって，おもしろかった。	5	○　自分の作品を多くの友達に認めてもらえるように，グループ内での相互発表を行うようにする。 ○　子供たちが次回の創造的な活動に意欲をもつことができるようにするために，本時で楽しかったことやできるようになったことを中心に発表させるようにする。